

農地が防災農地としての役割を果たすまち・練馬

—— 防災機能 ——



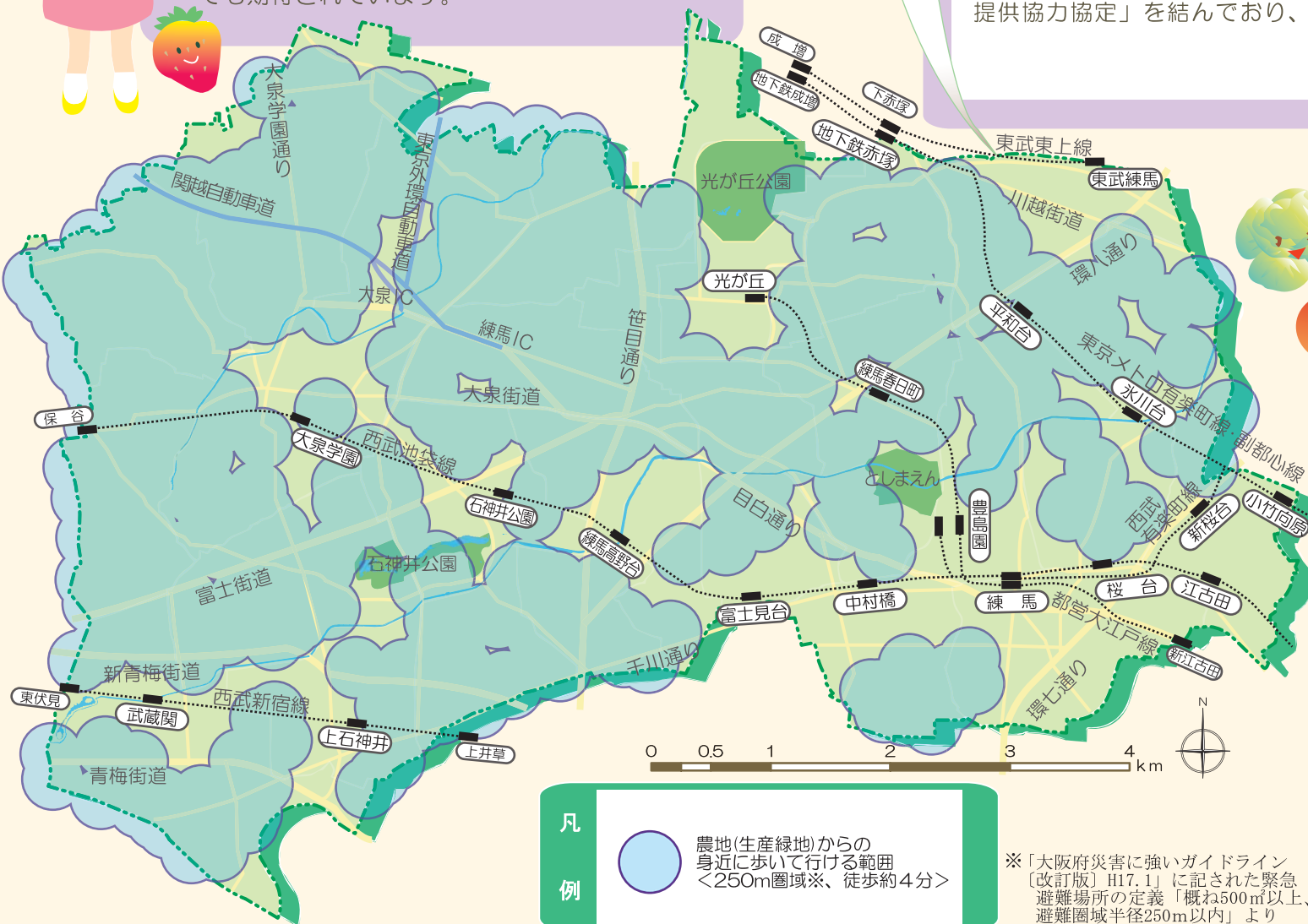
知っていますか？

身近に農地があるのは区内の72%

歩いて行けるところに農地があるエリアは区内の約72%となっています。身近なオープンスペースとしての農地は、防災面でも期待されています。

阪神・淡路大震災以降、都市における防災の必要性が一層高まっています。都市農地は災害時の延焼防止空間として、また地震時における避難場所、生鮮野菜の供給など、防災機能の発揮が期待されています。

練馬区では、ＪＡと区の間で「災害時における農地の提供協力協定」を結んでおり、検討を進めています。

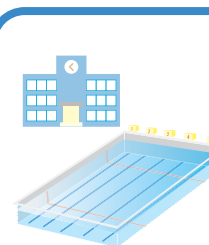


畑が洪水を抑制する緑のダム

練馬区の畑は、区内の全小学校71校のプールと同じぐらいの水を蓄え、大雨の際の洪水を抑制します。

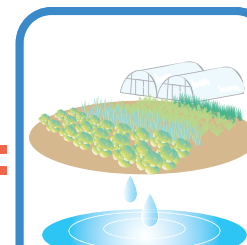
貯水量

プール71コ分



プールの水

練馬の農地



農地が蓄える水

※「大阪府災害に強いガイドライン〔改訂版〕H17.1」に記された緊急避難場所の定義「概ね500m以上、避難圏域半径250m以内」より